



図書館間相互貸借(ILL)での文献提供に「SV600」を導入 広島大学中央図書館 様

貴重な学術資料を多数収集・所蔵し、学生や研究者へ情報提供を行う大学図書館では、非接触で読み取るオーバーヘッドスキャナ「ScanSnap SV600」が大きな力を発揮する。他の図書館への文献提供に「SV600」を採用した広島大学中央図書館(広島県東広島市)を訪ね、「図書学術情報普及グループ」のお二人に「SV600」の活用方法について伺った。



広島大学中央図書館 様

国立広島大学の東広島キャンパスにあり、学内で最も規模が大きい。総合大学の中央図書館として理系・文系の多岐にわたる資料を220万冊以上所蔵し、研究者や学生のサポートを行っている。江戸時代の寺子屋で使われたものを含む国内最大規模の教科書コレクションでも知られる。コレクションの画像データベースのWeb公開、電子ジャーナルの充実など、デジタル化も積極的に推進している。

傷みの激しい本や重く分厚い本のデータ化が楽にできる

他の図書館に複写を送る際の問題点とは？

お話を聞かせてくれたのは図書学術情報普及グループのリーダー・野村正人さんと、同グループで文献デリバリーを担当を務める瀧脇有姫さん。同グループは図書館の主要業務である「資料の受け入れ」と「利用者への資料提供」のうち、後者を担当する部門だ。「『ScanSnap SV600』は、広島大学図書館から他の図書館に資料の複写を送る『図書館間相互貸借』(Interlibrary Loan : ILL)の業務に採用しました」(瀧脇さん)



野村正人さん(右)と
瀧脇有姫さん(左)。

ILLとは、大学などの研究者に学術情報を提供するため、図書や雑誌論文などの資料を図書館間で相互に利用し合う仕組みだ。研究者は最寄りの図書館を通じて必要な資料の複写を取り寄せ、論文執筆などに活用することができる。

ここでの問題点は、ILLで複写する頻度の高い学術ジャーナルなど雑誌タイプの資料には、背の糊が乾くなどして下向きコピー機では複写しにくいものが少なくないことだ。

「傷みが激しい資料を無理に開いて押しつけると背が割れてしまいますので、恐る恐る開きながらコピーしたり、諦めてデジタル撮影に変更したりすることもありました」(瀧脇さん)

“開ききらない資料”も傷めずにデジタルデータ化

「SV600」を導入したことで、この問題が解決した。コピー機の代わりに「SV600」でスキャンして出力すればよいのだ。「非接触で上から読み取るため、傷んだ資料でも無理をかけずに複写できます。画像補正機能があるので、“開ききらない資料”でも基本的には複写可能です」(瀧脇さん)

「下向きに置いて、ひっくり返して、という動作を繰り返す必要がないので、学術ジャーナルの合本のような重い本の複写にも有効ですね。ページを見ながら複写できるのも大きなメリットです。下向きだと失敗することもありますから」(野村さん)

さらにILLでは、著作権の切れた雑誌および図書に限って、複写したデジタルデータ自体を送受信することも

認められている。スキャンしたデータを送ることで、作業効率もアップするのだ。「海外の図書館との間ではデジタルデータをやり取りすることが増えています。これは、紙に出力して利用者に渡したあとでデータを消去する、という約束のもとで行われます」(瀧脇さん)



バックヤードの専用デスクに設置した「SV600」。
完全には開けない資料でもスキャンできる。



このように背が傷んでいる資料もある。



ジャーナルの合本は「糸かがり綴じ」のため開きはよいが、かなり重い。

速くスキャンでき、画像補正も可能

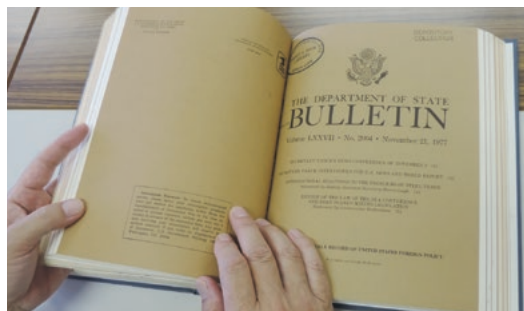
「SV600」の性能についての評価はどうだろう。

「読み取りのスピードが速いと思います。1回ごとに手動で画像補正を行う必要のある資料は別として、普通の資料でしたらコピー機と同じくらいの速さで複写できます」（瀧脇さん）

野村さんによると、過去にオーバーヘッドタイプのコピー機もあったがスピードが遅く、業務で使うまでには至らなかったとか。「『ページめくり検出機能』もおもしろいですよね。下向きの複写方式だと本をその都度ひっくり返しますが、これは4回めくるだけで5見開き分の複写がとれるわけですから」（野村さん）

「SV600」は画像補正機能も備えている。上向きに置いた本の中央部の歪みを補正する「ブック補正機能」と、写り込んだ指などを消すことができる「ポイント・レタッチ機能」だ。

「ブック補正機能はかなりきれいに補正できます。資料の開きが浅すぎると端のほうが見えなかったり、補正した段階でやや歪んだりする場合があります。ページの中の写真が位置によっては歪むことがあります。おおむね問題ないと思います。写り込んだ指は、見事に消すことができました（笑）」（瀧脇さん）



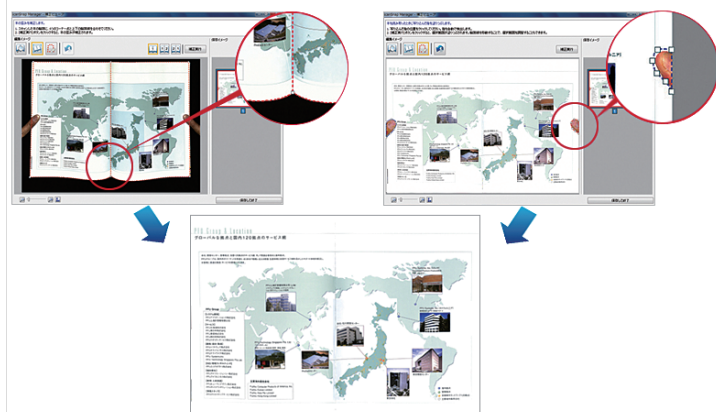
「図書館では学術研究目的であることを条件に、著作の一部分ならば、一人につき1部のみ、著作権法の制限なしに自由に複写することが許されています。ところがそれは、あくまでも紙のコピーに限った話なんですよ」（野村さん）

「デジタルデータを利用者に渡すことは複写物の公衆送信に当たるため、現状では禁止されています。その点で開架に『SV600』を置くとスキャンデータ持ち出しの危険が生じかねませんので、現時点ではバックヤードでの使用に留めています」（瀧脇さん）

「SV600」でスキャンしたデータを何らかの方法で直接プリントアウトするなど、データ自体は持ち出せない仕組みを構築できれば可能性は見てくる、と野村さん。「将来的には、コピーの需要が多い雑誌コーナーに置くことができれば便利でしょうね。」

ブック補正機能

ポイントレタッチ機能



中央の歪みと写り込む指をスキャン後に補正できる。



各分野の学術雑誌は研究のためにコピーされる頻度が高い。

研究者に向いている可能性もある

「SV600」の可能性について、野村さんは次のようにも指摘する。「上から読み取る非接触方式ですから、たとえば土器の破片のような小さい立体物もスキャンして、文書などと一緒の一つのPDFに収めることもできるわけですね。これは従来の機材ではできなかったことです。そうした点で研究者の需要もあるように思いますね。また図書館に限らず、学内のコピーセンターなどに置かれていても便利なのではないでしょうか」

バックヤードでの活用もこれからますます本格化していく。ILLのほか、日常の様々な業務にも「SV600」を活用していきたいと瀧脇さんは言う。学術研究を支える図書館の業務を、「SV600」が効率化することを期待したい。

開架での使用は将来的な可能性として

前述のILLのための複写は、図書館のバックヤードで職員が行う。それに対して研究者や学生など一般利用者への資料提供は、主に「開架スペースに設置されたコピー機を用いて、利用者自身が紙のコピーを取る」という方式で行われる。

この場合もコピー機の代わりに「SV600」を活用できれば、複写の確実性向上や資料の傷み軽減といった効果が期待できるかもしれない。だが現状では著作権保護のための制約があり、それが可能な環境をただちに整えるのは簡単ではない。

【著作権について】 著作権の対象となっている新聞、雑誌、書籍等の著作物は、個人的または家庭内、その他これらに準ずる限られた範囲内で使用することを目的とする場合など、著作権法で定められた例外を除き、権利者に無断でスキャンすることは法律で禁じられています。なお業務利用では、著作権者の許諾が必要となることがありますので、著作権法、およびご利用になる企業や団体で定める利用規則等に従って利用して頂くようお願いいたします。

販売店

【お問い合わせ先】 株式会社PFU イメージング サービス&サポートセンター
TEL: 050-3786-0811
<受付時間> 月~金曜日 10時~12時、13時~17時(当社休業日除く)
E-mail: scanners@ml.ricoh.com

ScanSnap に関する詳細はこちら
<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/>